

<h1>議 事 録</h1>	作 成 日	2020年2月17日
	作 成 者	千種 隆昌

会議名	第2回多世代共生型施設建設等準備委員会
日 時	2020年2月6日(木) 10:00~12:10
場 所	桑名市総合福祉会館 1階 第一会議室
出席者	委 員 : 長谷中委員長 藤原副委員長 加藤委員 田上委員 栗田委員 水谷委員
	事務局 : 加藤常務 竹内局長 山下法人統括マネージャー 水谷係長 千種
	内藤大和リース三重支店長
欠席者	なし

議事概要	
1. 挨拶	
○委員長	<p>前は福祉ヴィレッジのコンセプトなど現状を共有。今回は主に平面図、ハード面について集中的に検討しご意見を頂きたい。</p>
○副委員長	<p>前は欠席してすみません。県知事と地域懇談会に参加していた。三重県の現状について話し合った。多世代共生型施設、皆さんから意見を頂きながら、良いものを建設していきたいと考えている。</p>
2. 議事	
(1) 前回議事録確認	<p>資料1に沿って事務局より説明。 →議事録は公開せず、情報共有を目的としている。</p>
(2) 作業部会の活動状況について	<p>資料2に沿って事務局より説明。</p>
○委員	<p>作業部会資料について、ただ羅列するのではなく、事業ごと等にまとめてもらえると有難い。 →項目ごとにする等見やすい形でまとめる。</p>
○委員	<p>養護老人ホームの特定施設とは？</p>
○事務局	<p>養護老人ホームは住居として、介護保険のサービスを利用する事が出来る。施設内に訪問ヘルプの事業所があり、介護保険のサービスを受けられるようなイメージ。介護サービス事業と、措置の事業を施設内で行う。利用者の中で介護保険の認定が出る方が増えてきている。他の施設に入ることは待機等で難しい。特定であれば介護が必要となってもそのままいる事が出来る。一方で、介護負担が増える為、新たな職員確保が必要だったり、職員のスキル</p>

議事概要

向上も求められたり、措置費のベースが下がる等のデメリットもある。しかし、運営のやり方によっては収入が増える場合もある。介護が必要で経済的に困窮している方の受け皿にもなっていくこともできる。

○委員

今はまだ特定でない？

○事務局

今は特定でない。元々市の直営で行っていたのを9年前に指定管理で社協運営になる際、特定化を提案したが、職員構成が従来通りでは切り替えが難しかったため、もう少し先に考えようという話になった。今は施設長から特定化へと提案をもらっている。

○委員

お金の話になるが、資料2の1P下部、子育て支援センター（日中一時預かり）の母子利用希望とあるのはどのような意味か？

○事務局

母子生活支援の利用者が、勤務などの急な事情で一時的に子どもを預けたい場合に利用できると助かるという声を受けたもの。

○委員

子育て支援センターについては、行政からあったほうが良いとの話があったのか。

公立で行う場合と、私立で行う場合で行う場合で意味合いが変わってくるが理解されているか。補助金の絡みで、民間で行う場合はエリアで何ヶ所と決まっている。民間だと年間800～900万もらえるはず。公立寄りの考えでお金をもらわずに行うのはどうか。社福が行うのであれば、採算性も検討が必要。補助金をもらえる方法も検討しては。県への申請も必要になってくる。

○事務局

当初の提案には子育て支援センターの費用を運営費に入れていた。行政とのやり取りの中から江場地域でこの機能が良かった方が良いという話があった。江場の時には一時預かりと、子育て支援センターが入っていたが現在地には入っていない。どうするかという議論もあり、将来的な展望として現時点では考えている。

○委員

資料に予算上の制約という記載があったため、補助金がもらえるものはもらって整備した方が良いと思った。

○委員長

子育て支援センターの中身についても、相談する機能を持たせて、親が身近に相談できる場を設けるのか等、地域性も踏まえながらどんな子育て支援センターを設けていくのか、行政その他機関とも調整しながら議論を深めてもらえると良い。

(3) 店舗計画（案）について

資料3に沿って事務局より説明。

○委員

議事概要

出店候補に障サ連も入っていてよかった。ロイヤリティ、営業日等詳細は決まっているか？もし決まっていたら教えて頂きたい。

○事務局

現段階でまだ決まっておらず検討中。

○委員

広さはどのような感じか？

○事務局

面積は通常のコンビニの半分程度。物販が主で、店舗内では調理しない想定。飲食は地域交流スペース1階で行う想定。法令上、松ノ木地区は第一種低層地域で、通常店舗は建てる事が出来ない。よって、公聴会を開いて近隣住民の了承を得る前提で建設予定。

○委員

就労Bの作業スペースはどこか？

○事務局

地域交流スペース1階に配置予定。地域交流スペースは市が建設費用を全額負担。現在、平面図を市と打ち合わせ中。

○委員長

店舗は大事な要素で、地域の色々な人がつながる拠点となる。多機能、多目的で色々な人が使えるような、来たくなるような仕掛けが必要になってくる。ハード面も工夫してもらいたい。障がいのある方の社会参加の場になったり、地域の方が講師役となって学びの場になったり、若い人にも訪れてもらったりと、様々な人が何度も来てもらえるよう店舗と地域交流スペースを一体的に考えていただきたい。

(4) 平面図について

○事務局

現在の状況等について説明。(作業部会での意見を受けた変更予定箇所含む)

- ・通所棟の調理室位置を保育室に近づける。
- ・共用できる部分は出来る限り共有化し敷地面積を減らす。また、調理室への外からの搬入出経路を確保する。
- ・生活介護を1階に移してほしいという希望は避難のことを理解した上でも難しい。調理室を2階に持ってくるのも非現実的。
- ・居住棟2階の母子事務室、緊急一時保護室は1階へ移動予定。

○委員

- ・基本的にはいいと思う。後は、利用される方がどのように思うか、聞き取り等を行い、見直すべき点があれば見直した方が良い。
- ・アンケートの実施予定とあるが、どのようにとられるのか。とるのであれば時期は早い方が良いのでは。現時点の構想をお伝えしたうえでご意見を聞いた方が良いのでは。

○事務局

ご意見踏まえ、実施するかどうか含め今後速やかに検討したい。

議事概要

○委員

近々、松ノ木、星見ヶ丘に防災拠点が出来るとの話も聞いている。この防災拠点と福祉ヴィレッジは近いので、連携できる面があるのでは。例えば、送電線の位置に支障なければ、福祉ヴィレッジの屋上にヘリを受け入れる場所があると良いのでは。

○委員

防災拠点の話があるが、この施設にできるか？施設の中身が母子寮、老人ホーム、保育園、療育、という中に防災拠点をもってくるのは難しいのでは。また、近隣の大山田消防署が建て替わると言う話も聞いている、学校も近隣にある。あえてここを防災拠点としなくても良いのでは。管理者が行政でないので、救援物資の支給も後回しになる。行政の手が入らず果たして機能するのか。更に、拠点とすれば、防災倉庫の設置も必要になるが、現状難しいのではないか。

○委員

地域交流スペースはフェンスか何かで区切られるのか？

○事務局

現時点では区切らない想定。図面上の赤い線は敷地境界線を示すもの

○委員

同一敷地内に保育園と食べ物等を扱う店舗が一体にあると、保護者が送迎時に子どもより買い物優先しないか心配。

何等かの制限をかけるべきでは。店舗の存在自体は問題ないが、何等かで区分すべきでは。また、地域住民の発表の場とあるが予約方法はどのようにするのか。飲食スペースとどのように区切るのか。

○事務局

地域交流スペースは2階建て。2階部分は主に近隣住民向けに自治会活動等で利用いただき1階は社協の就労B事務所と自由に飲食や雑談ができるスペースを想定。

○委員

- ・ 保育室の法定面積に係る資料を作成。
- ・ 現在の図面では、計算すると収容人数最大 240 人入る。作業部会で定員に則して各部屋の面積に修正とあったが、90 人定員の内訳、年齢ごとの定員をまた教えてほしい。
- ・ 私保連からの要望として、山崎乳児保育所の現在定員は 150 人に対し実質利用者は約 100 人。定員 60 人を山崎に残して、90 人福祉ヴィレッジに持ってくる計画で合わせて 150 人ということだが、実質現在 100 名しか利用していないのに本当に福祉ヴィレッジに 90 人定員が必要なのか。
- ・ 療育保育の利用減時とあるが、その予測理由は？

○事務局

療育のご質問については、現在、訓練のニーズが充足されていないと聞いているため、今後訓練を充実させることで、現在保育療育を利用されている方からも訓練療育へ移行されていくと予測。その移行分を利用者減とした場合、部屋の稼働率を上げるため他機能にも転用できるよう検討している。

議事概要

○事務局

現在の桑名の療育は保育型。今後はセンター化することによって、保育療育は市内の保育園でも受け入れが可能となり、障がい児の預かり保育が分散されるので、現在桑名の療育センターで実施している保育療育の人数は減ると予測。

○事務局

保育の定員については、船井総研の試算もふまえ今後検討していきたい。その上で、大和リースに必要な面積を確保してもらう予定。

○事務局

船井総研のコンサルと、各委員の方とも直接お話をして頂きたい場面があるかもしれない。その際にご協力をお願いしたい。

○委員長

- ・私保連との連携も深めて頂きたい。
- ・店舗への区切りに関しては、メリット、デメリットを検討し、つながりを大切に、なるべく分断しない配置、運用方法を検討してもらいたい。
- ・療育センターは長期的に見据え、障がい児は多様、個性を大事に、映画「みんなの学校」のように、色々な子ども達がつながる中で育っていく、障がい児といっても、いきなり集団に入っていくのが難しい子、関わりの持てる子等様々。配慮が必要な子も段階を踏んで連続性の中で成長できるよう、選択肢を用意しておくことが大事。

○委員

生活介護は2階にある。避難が必要な状況はどのような場面を想定しているか？

○事務局

当地には断層もなく、水害も浸水想定区域でない、土砂災害の指定区域でもない。貯水タンクもあり断水の心配もあまりしていない。一番は火事。消防に確認し、緊急車両駐車場所も設置予定。前の幹線道路に消火栓がないため、敷地内に消火栓を設置しないとイケない。消防水槽の位置の検討が必要。居住棟にはスプリンクラーを設置予定。

○事務局

消防と事前打ち合わせをした際は、通所棟にもフルスペックでという話がある。

○委員

非常用電源があると地域の方や病気の人で電気が必要な方等も安心できる。

○事務局

非常用電源を内々で使うのか、外部の人も使うのか、ソーラーをつけるのか等色々な事につながってくる。設置するとなると蓄電池、バッテリーが必要になる、スペースも必要。現在のところ、内々には法律で定められている基準設備を確保しているが、余剰で外部の人にも活用いただくことは想定していない。

○委員長

防災、減災の意識醸成も重要。地域の方と避難訓練を一緒に行うなど、地域の方に安心してもらえる取組（機能）も検討してはどうか。

○委員

議事概要

養護老人ホーム1階の仏壇スペースはどのようなものか？

○事務局

現在も集会スペースの一角に仏壇が設置されていて、毎日手を合わせる利用者がいるため、引き続き設置するための備忘録として記載してあるもの。別室等特に区切るものではない。

○事務局

生活介護を2階や3階でやっているところや都会の高層施設がどのように避難想定しているか研究したい。

○委員

のぞみには後付けの小さな手動のエレベーターがある。

○事務局

電気が消えてゆっくり移動する場合と、火が出て急いで避難する場合が想定される。緊急時は応急的に屋上への避難も可能だが、いずれも完全な策ではない。

○委員

- ・療育センターについて、内容によって、部屋の大きさ・間取りが変わってくる前提で、現在の療育センタープラスαで以下の通り考えた。
- ・広い部屋がほしい。
- ・倉庫が少ない・小さい。
- ・トイレはお客様用＝保護者用があるか。子ども用はおむつ交換が出来て、プライバシーに配慮されているか。
- ・床暖房、肢体の方にはあった方が良いのでは。現在はある。
- ・肢体不自由児と動く子と空間を分けた方が良い。近くで動き回っていたら危険。
- ・療育用園庭が入口から遠いのでは？
- ・療育室は1部屋に何人入る想定か。
- ・訓練室これだけの指導員を確保できるのか。1日の大半が空きスペースにならないよう。
- ・計画相談場所は1階でないか。
- ・養護老人ホームについて、自分たちが入居するとして以下の通り考えた。
- ・居室が病院のような冷たい印象を受けた。家庭的なくつろげる空間として、ミニ交流スペースを設置してはどうか。
- ・人が集まる集会室は真ん中の方がよいのでは？
- ・保育所について、乳児室は静かな位置が良いのでは？
- ・運動会を現在実施しているが、この園庭の広さで出来るのか？
- ・福祉ヴィレッジ全体について、スローガンを前面に出してほしい。簡単で分かりやすい言葉で。桑名特別支援学校の行政と語る会の参加者でも福祉ヴィレッジのことを知らない方が少なからずいた。これまでの経緯や今後のことを市内全体にPRしてほしい。
- ・施設名、キャラクターを募集してはどうか。
- ・防災倉庫はあるか？療育センターの子で、食べられるもの、食べられないものがある。好き嫌いもあり、災害の非常食を食べられない子もいる。委員のお子さんはお菓子を常備している。

議事概要

- ・店舗販売時にはアレルギー対応をお願いしたい。

○委員

- ・駐車場からの登園の様子が見えづらい。駐車場で困っていた時にすぐ動けるよう、事務室は駐車場側にした方が良いのでは。
- ・広報が大事。作っていく過程から知ってもらえると良い。
- ・出入口付近が混雑するのではないか。もっと出入口を信号からの離れた方が良いのでは？
- ・地域交流スペース、パーテーションを入れて多目的に使えるようにしてほしい。

○委員長

店舗、地域交流スペースの大きさ、配置に関しては、今でも検討の余地ありか？

○事務局

地域交流スペースについては、地域住民の要望を受け、伝馬公園時の平屋から2階建てに変更したが、現状以上にはならないと思われる。店舗については、市有地を社協が店舗分を借りて建てるため大きさは自由だが、大きくする分、地代や建設費は増加する。

○事務局

地域交流スペースと名称が変わったが、元々は保護者交流スペースとしての発想。保護者の方は遠慮せずにどんどん使ってもらいたい。

○委員長

家族への支援も福祉ヴィレッジの重要なキーワード。保護者の方が使いやすいよう、全体の中でプランニングしてもらいたい。いずれもつながりがキーワード。内の双方向性をハード面からも工夫して作っていく、保育園での製作物を地域交流スペースや養護老人ホームで展示する等。施設壁の素材を磁石で貼れる素材にすると展示に使いやすいのでは。また保育園行事を養護入居者が支えたり、公園で何かするときには地域の方が見守るなどして、つながりが強化される。ソフト面も大事だが、ハード面で、来たくなるような、新しい福祉のカタチのイメージをもってもらえるような斬新なデザインを大和リースにはお願いしたい。

4. その他

今後の会議日程について確認

第3回：2月19日（水）10時から 総合福祉会館

第4回：3月6日（金）10時から 総合福祉会館

以上